

<在宅歯科診療>

在宅歯科診療の背景

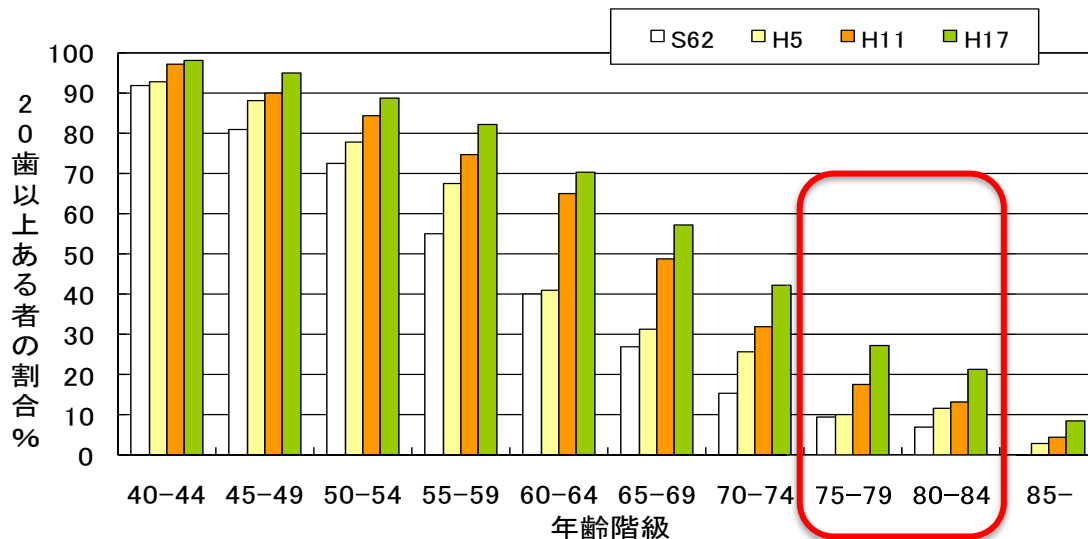
高齢者へのアンケート — 高齢者のQOLと口腔は関係が深い —

- 80歳以上の高齢者 233人
- 生きがい(喜びや楽しみ)を感じる時
 - ① 孫など家族との団らんのとき 47.2%
 - ② テレビを見たり、ラジオを聞いているとき 36.1%
 - ③ 趣味やスポーツに熱中しているとき 34.8%
 - ④ 友人や知人と食事、雑談しているとき 30.0%
 - ⑤ おいしいものを食べているとき 26.2%

出典)内閣府 平成15年 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査)

20歯以上の歯を有する高齢者が増加してきており、
高齢者の歯が残るようになってきている。

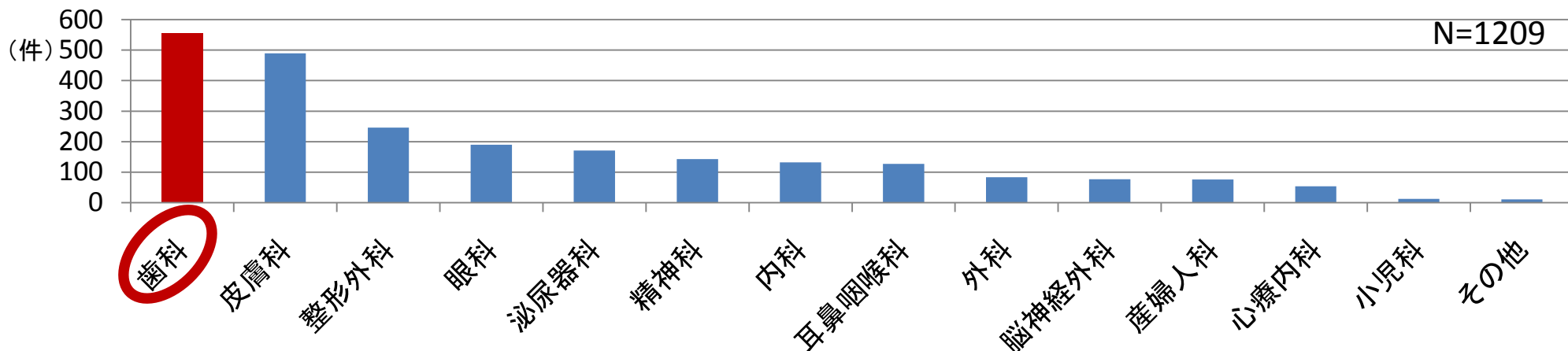
20歯以上の歯を有する者の割合の推移



8020達成者の割合は、着実に増加
平成17年調査結果で
75~79歳 27%、80~84歳 21%と
健康日本21の2010年の目標値20%を既に達成

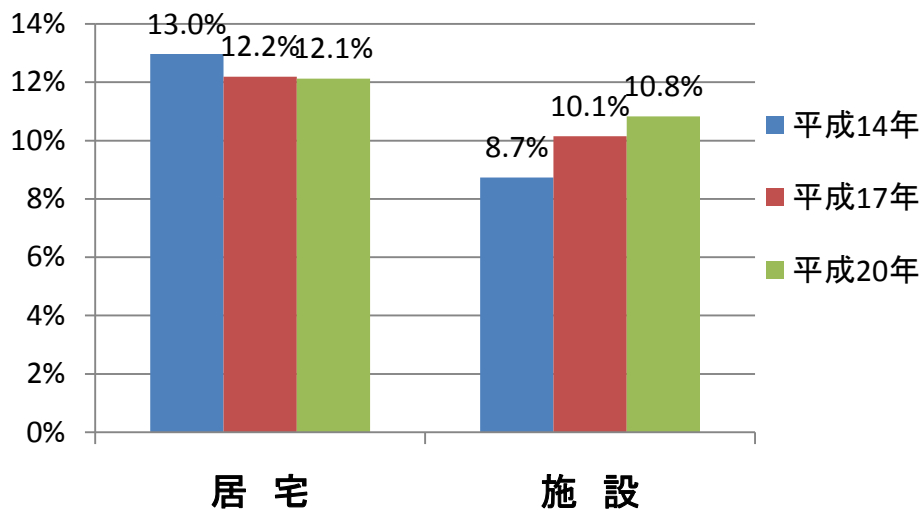
在宅歯科診療の現状

在宅医療の主治医(医師)が連携を必要とした診療科は「歯科」が多い。



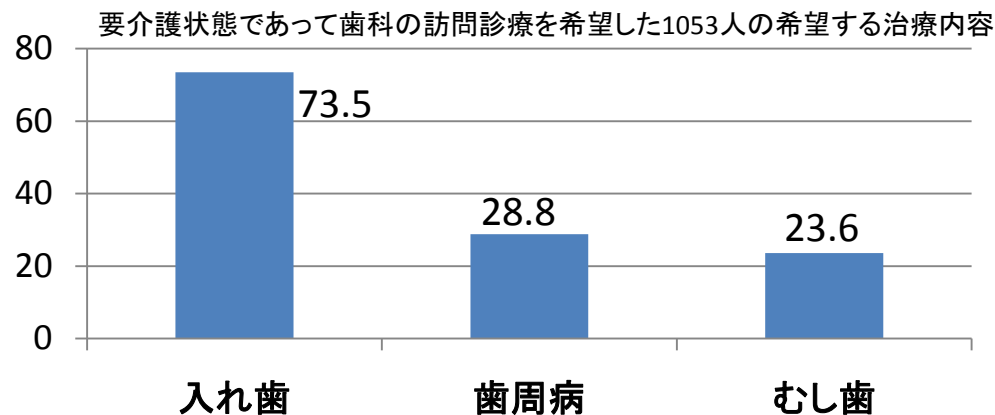
出典) 東京の在宅医療の現在 ~ 東京都在宅医療実態調査

訪問歯科診療を実施している歯科診療所の割合
— 施設は増加しているが居宅は増加していない。



出典) 医療施設調査

要介護者の希望する治療内容のほとんどは
「入れ歯」の治療である。



出典) 平成12年度「要介護老人の摂食障害発生要因に関する研究」 102

在宅高齢者への歯科保健医療対策の推進

＜在宅高齢者に対する歯科保健医療推進の必要性＞

- 89.4%の者が「何らかの歯科治療または専門的な口腔ケアが必要」である一方、実際に歯科治療を受診した者は26.9% ※1)
- 要介護度が高くなるほど、重度う蝕が多くなる傾向にある。 ※2)
- 在宅歯科医療サービスを実施している歯科医療機関は少ない。 ※3)
→ 居宅：約12%、 施設：約11%

平成20年度～

- 【歯の健康力推進歯科医師等養成講習会】（H21年度は7地区11会場で実施）
高齢者・寝たきり者等に対する在宅歯科医療、口腔ケア等を推進する歯科医師、歯科衛生士の養成講習会
- 【在宅歯科診療設備整備事業】（H21年度は20都道府県で実施）
上記講習会を修了した歯科医師で、歯科医療機関の開設者に対する在宅歯科医療機器の補助制度

平成22年度～

- 【在宅歯科医療連携室整備事業】
在宅歯科医療を推進するため、医科・介護等との連携窓口、在宅歯科医療希望者の窓口、在宅歯科医療や口腔ケア指導者等の実施歯科診療所等の紹介、在宅歯科医療に関する広報、在宅歯科医療機器の貸出しなどを行う在宅歯科医療連携室を整備する事業を実施する。



※1 出典) 平成14年度「情報ネットワークを活用した行政・歯科医療機関・病院等の連携による要介護者口腔保健医療ケアシステムの開発に関する研究」

※2 出典) 平成14年度「病院別要介護者口腔保健医療ケアに係る工程表（クリニカルパス）の開発と評価」

※3 出典) 平成20年医療施設調査

在宅歯科医療連携室整備事業 (平成22年度～、医政局、2.7億円)

